

趣味のひとつ オールディーズ

第3巻 アメリカのフォークソング

オールディーズの大きな流れとして「ロックンロール」と「フォークソング」があります。今回はフォークソング、特にアメリカのフォークソングを取り上げます。フォーク歌手はそれまでフォークギター（アコースティックギター）で演奏していましたが、ロック系のグループが使うエレキギターに影響を受け、エレキギターを使うフォーク歌手が現れてきます。ロックっぽいフォークソングなので「フォークロック」と呼ばれます。フォークロックも含めたフォークソングを人数別で分類してみました。ヒットチャート・ランキングは全米ヒットチャート「ビルボード誌」（以下B誌）を参考にしています。

◆三人組と四人組

先鞭をつけたのは、三人組のキングストン・トリオで、「トム・ドゥーリー」（B誌第1位）や「花はどこへ行った」のヒット曲があります。三人組と言えば、ピーター・ポール&マリーがいました。略してPPMと呼んでいましたが、今PPMを検索すると、汚染物質の単位（parts per million）が出てきて悲しいですね。ヒット曲は「500マイル」「レモンツリー」「天使のハンマー」「悲しみのジェットプレーン」「パフ」などたくさんあります。当時の学園祭で必ず一組はPPMのコピーグループが出演していたものです。

四人組では、グループ名にもなっているブラザース・フォーでしょう。「グリーン・フィールズ」（2位）「遥かなるアラモ The Green Leaves of Summer」「北京の55日」「七つの水仙」「トライ・トゥ・リメンバー」など数々のヒット曲があります。「北京の55日」は義和団事件を題材にした同名の映画主題歌で“時是一千…九百年…”“フランス、イギリス、イタリア、ロシア、さらに加えて精鋭日本…花の北京、いまや火の海…”と克美しげる（昭和12年～平成25年没）が勇ましく歌っていました。私はブラザース・フォーの曲の中では「チェンジズ Changes」（邦題：木の葉の丘）と言う曲が好きです。原曲は英国のクリスピン・セントピータース（1939年生）が歌っていますが、コーラスが付いて音に厚みがある分、原曲より良く仕上がっています。

◆二人組とソロ歌手

二人組はサイモン&ガーファングルです。「サウンド・オブ・サイレンス」がB誌で1位を記録し、日本でも1968年に公開されたダスティン・ホフマン(1937

年生)とキャサリン・ロス(1940年生)主演の映画「卒業」で「ミセス・ロビンソン」(1位)や「スカボロー・フェア」とともに挿入歌として使われヒットしました。他にも「コンドルは飛んで行く」や1970年にグループとして三枚目のB誌1位を記録した「明日に架ける橋」など数々のヒット曲があります。

ソロ歌手ではボブ・ディラン(1941年生)を挙げましょう。「風にふかれて」(PPM盤で2位)「ミスター・タンブリングマン」(バーズ盤で1位)等のヒット曲があり、世界中のミュージシャンに影響を与えました。カントリーソング歌手とも言われるジョン・デンバー(1943年生～1997年没)は1971年に「故郷に帰りたい Take Me Home, Country Roads」(2位)をヒットさせました。彼は自ら操縦する飛行機がカリフォルニア沖に墜落して帰らぬ人になったのですが、私が在米中の事故だったので良く覚えています。女性ではジョーン・バエズ(1941年生)が「ドナ・ドナ」を歌い、ジュディ・コリンズ(1939年生)はジョニ・ミッチェル(1943年生)が作った「青春の光と影 Both Sides Now」(8位)を歌いヒットさせました。

◆フォークロック

「メンフィス」(2位)「僕らの街 Poor Side of Town」(1位)「秘密諜報員」(3位)などのヒット曲があるジョニー・リヴァース(1942生)はフォークロック界の大御所です。「孤独の世界 From A Distance」のP.F. スローン(1945生)も忘れてはいけません。P.F. スローンの流れを受け継いだグラス・ルーツは「今日を生きよう」(8位)「真夜中の誓い」(5位)などのヒット曲を出しました。「ユー・ベイビー」や「ハッピー・トゥギャザー」(1位)で有名なタートルズや、後のアバ ABBA と同様、二組のカップルでメンバー間の不倫騒動もあった「夢のカリフォルニア」(4位)「マンデー・マンデー」(1位)「アイ・ソー・ハー・アゲイン」(5位)等、チャート上位の曲を連発したママス&パパスをフォークロックの範疇に入れる人もいます。残念ながら四人のうち今も存命なのは女優としても活躍しているミッシェル・フィリップス(1944生)だけです。

いかがでしたか。懐かしんでいただけたでしょうか。今回、日本のフォークソングには触れていませんが、機会があれば特集したいと思います。次回はいろいろなポップグループに眼を向けてみましょう。

<不思議な体験>

ニューヨークには CBSFM というオールディーズ専門の FM ラジオ局があります。周波数が 101.1 なので、“～♪ワン・オー・ワン～♪”のタイトルコールで始まり、曲目の紹介も無く、ひたすら一日中オールディーズの曲が流されてい

ます。通勤時や移動中など、暇さえあれば携帯ラジオのイヤホンで聞いていました。或る日、とても不思議な体験をしました。セントラル・パークの西側（通称アップパーウエスト）にあるジョン・レノンが非業の死を遂げたダコタ・ハウスを見に行こうと思い、歩いていた時のことです。事件現場の玄関前に着くと、イヤホンから何と「イマジン」が流れてきました。偶然とは言え、タイミングが良すぎて鳥肌が立ちました。ジョンが“良く訪ねてくれたな…”と語りかけてくれたようで、思わず合掌してしまいました。